

## 行刑施設職員の生活と意識に関する研究（その2）

矯正協会附属中央研究所 廣橋 秀山  
 伊藤 嘉明  
 市原学園 田島 秀紀\*  
 横浜少年鑑別所 濱井 郁子\*\*

キーワード：職業，職場，余暇，満足度，勤務年数

### 1 はじめに

本研究は、紀要第11号に発表した行刑施設職員の生活と意識に関する研究(その1)の続報である。今回は、職業に関する意識、健康状態、余暇に関する意識及び生活一般に関するそれぞれの調査についての結果を報告した。

その結果を簡単に要約すると、職業に関する調査からは、男女職員の9割が職場での人間関係や勤務条件を重視していることや、40歳代職員の企業帰属意識は有意に高いことが明らかになった。余暇に関する意識調査からは、現在の休日日数については、男女とも6割が少ないと感じており、男子では年齢が低いほど連続する年休を希望していることが分かった。その他、職員の年齢については40歳を区切りとして、意識の志向性に差があると捉えることができた。

本研究では、調査の中でも職業に対する意識と余暇に対する意識及びそれぞれの関係について注目し、男女それぞれ勤務年数ごとに分析した結果を報告する。

### 2 目的

行刑施設職員が日ごろどのようなことを考

えながら生活し、仕事に取り組んでいるかを調査し、より快適な職場及び私生活環境作りを資する資料を得ることを目的とする。

### 3 方法

#### (1) 調査対象

調査対象は、1,557名(男子1,201名、女子356名)の行刑施設職員である。調査対象の階級は副看守長、看守部長及び看守である。

全国の行刑施設職員のうち、2000年4月26日現在の各施設の職員数を参考にし、男子施設は35庁、女子施設は5庁を調査対象施設とした。

なお、職員の抽出方法については、前回報告を参照されたい。

#### (2) 調査時期

2000年9月6日から同年9月30日までの25日間

#### (3) 調査内容

調査票は、職員用調査票1部のみから構成されている。各質問項目については、前回報告を参照されたい。

#### ア 職業に関する意識調査

##### ① 職業志向尺度

若林他(1983)による尺度の簡易版である。

\*前矯正協会附属中央研究所 \*\*元矯正協会附属中央研究所

職業や仕事に何を求めるか、仕事の条件やその結果に対する期待や好みを測定する内容である。

## ② 企業帰属意識尺度

関本・花田(1987)による尺度の簡易版である。組織の目標、規範、価値観を受け入れ、その組織のために働きたいという意欲を測定する内容である。

## ③ 職場に対する意識調査

職場において、職員の具体的な状況での意識を問うものである。内城(1981)が大阪刑務所の職員に対して行った調査の引用である。今回は「職場の満足度」と「職場に対する不満の理由」について分析を実施した。

### イ 余暇に関する意識調査

職場以外の生活意識の中で、特に余暇に関する意識を問うものである。「余暇の満足度」「余暇の不満な理由」については、内閣総理大臣官房広報室による調査(1992)を参考として作成したものである。「余暇の目的」は、鈴木(1992)が札幌矯正管区内施設職員に対して行った調査の引用である。「希望する連続休暇」は、内城(1981)が大阪刑務所の職員に対して行った調査の引用である。

### ウ 職業及び余暇に関する意識の関連

「仕事と余暇の関係」は、内閣総理大臣官房広報室による調査(1992)を参考として作成したものである。

なお、その他の調査項目のうち、「職員の属性」、「健康状態調査」、「生活一般に関する調査」については、前回報告分を参照されたい。

## 4 結果

有効な回答が得られた1,557名の行刑施設職員について、男女別に見るとそれぞれの分布に特徴的な偏りがあるため、男女別・勤務年数別に4分位偏差(25%)で分類した。男子は、0～9年、10～17年、18～24年、25年以上、女子は、0～2年、3～7年、8～14年、15年以上の4群に勤務年数をそれぞれ分け、各項目について検討した。

### (1) 職業に関する意識

#### ア 職業志向尺度

表1は、男子の職業志向尺度得点を基準変数、勤務年数を説明変数として一元配置の分散分析を実施した結果である。有意差が得られたので( $F(3)=2.991$ ,  $P<.05$ ), LSD法により多重比較を行ったところ、勤務年数が18～24年は0～9年及び25年以上よりも職業志向尺度得点が高いことが示された。

表2は、女子の職業志向尺度得点を基準変数、勤務年数を説明変数として一元配置の分散分析を実施した結果である。有意差が得られたため( $F(3)=2.860$ ,  $P<.05$ ), LSD法による多重比較を行った。その結果、勤務年

表1 勤務年数別による職業志向尺度の分散分析(男子)

勤務年数		①0～9年	②10～17年	③18～24年	④25年以上	検定結果
職業志向	N	279	310	287	283	$F(3)=2.991^*$ ③>①④
	M	25.13	25.34	25.88	25.12	
	S D	3.49	3.34	3.36	3.65	

注) \*は5%未満で有意差があることを示す。

表2 勤務年数別による職業志向尺度の分散分析(女子)

勤務年数		①0～2年	②3～7年	③8～14年	④15年以上	検定結果
職業志向	N	99	78	91	79	$F(3)=2.860^*$ ①④>③
	M	23.99	23.42	22.91	24.43	
	S D	3.62	3.26	3.83	3.51	

注) \*は5%未満で有意差があることを示す。

数が0～2年及び15年以上は8～14年よりも職業志向尺度得点が高く示された。

イ 企業帰属意識尺度

表3は、男子の企業帰属意識尺度得点を基準変数、勤務年数を説明変数として一元配置の分散分析を実施した結果である。有意差が得られたので（ $F(3)=5.966, P<.001$ ）、LSD法による多重比較を行った。その結果、勤務年数が18年以上は0～9年よりも企業帰属意識尺度得点が高く示された。また、勤務年数が25年以上は10～17年よりも企業帰属意

識尺度得点が高く示されている。

表4は、女子の企業帰属意識尺度得点と勤務年数の関係を示したものである。一元配置の分散分析を実施したところ有意差が得られた（ $F(3)=12.335, P<.001$ ）。LSD法により多重比較を行うと、勤務年数が15年以上は0～2年、3～7年及び8～14年よりも企業帰属意識尺度得点が高く示された。

ウ 職場の満足度

表5は、男子における職場の満足度について、勤務年数との関連を示したものである。

表3 勤務年数別による企業帰属意識尺度の分散分析（男子）

勤務年数		①0～9年	②10～17年	③18～24年	④25年以上	検定結果
企業帰属意識	N	279	310	287	283	F(3)=5.966*** ③④>① ④>②
	M	38.69	39.04	40.14	41.06	
	S D	6.73	7.39	6.52	6.99	

注) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

表4 勤務年数別による企業帰属意識尺度（女子）

勤務年数		①0～2年	②3～7年	③8～14年	④15年以上	検定結果
企業帰属意識	N	99	78	91	79	F(3)=12.335*** ④>①②③
	M	33.72	32.63	34.02	38.46	
	S D	6.02	7.60	5.94	6.59	

注) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

表5 職場生活の満足度（男子）

勤務年数	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上	合計	検定結果
満足	18 (6.4) [-1.7]	26 (8.4) [-0.4]	25 (8.6) [-0.3]	37 (12.5) ▲[2.4]	106 (9.0)	$\chi^2(3)=23.959^*$
やや満足	75 (26.7) [0.2]	68 (21.9) ▼[-2.0]	81 (27.7) [0.6]	86 (29.1) [1.2]	310 (26.3)	
どちらでもない	84 (29.9) [1.3]	91 (29.4) [1.1]	68 (23.3) [-1.6]	74 (25.0) [-0.8]	317 (26.9)	
やや不満	84 (29.9) [0.5]	84 (27.1) [-0.7]	95 (32.5) [1.7]	75 (25.3) [-1.5]	338 (28.7)	
不満	20 (7.1) [-1.4]	41 (13.2) ▲[2.9]	23 (7.9) [-0.9]	24 (8.1) [-0.7]	108 (9.2)	
合計	281 (100.0)	310 (100.0)	292 (100.0)	296 (100.0)	1179 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し，[ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*は5%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果，▲は期待値より有意に多く，▼は期待値より有意に少ないことを示す。（5%未満）

注4) 無回答は除く。

職場の満足度と勤務年数との間に有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、10～17年は、「やや満足」が有意に少なく、「不満」が有意に多かった。25年以上では、「満足」が有意に多い結果となっている。

表6は、女子における職場の満足度について、勤務年数との関連を示したものである。職場の満足度と勤務年数との間に有意な関連は見られなかった。

#### エ 職場に対する不満の理由

表7は、男子において職場の満足度に「不満」「やや不満」と回答した者（調査対象者である男子全体の37.9%）のうち、「職場に対する不満の理由」に関する12項目について勤務年数との関連を見たものである。

なお、「あてはまる」の回答を「肯定」、「あてはまらない」の回答を「否定」とした。職場に対する不満の理由と勤務年数に関して、2項目に有意な関連が見られた。

「5 良い上司に恵まれないから」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は「肯定」が有意に少なく、「否定」は有意に多くなっている。勤務年数が25年以上は「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少なくなっている。

「11 収容者に問題が多いから」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、

10～17年は、「否定」が有意に少なく、「肯定」は有意に多くなっている。25年以上は「否定」が有意に多く、「肯定」は有意に少なくなっている。

表8は、女子において職場の満足度に「不満」「やや不満」と回答した者（調査対象者である女子全体の46.3%）のうち、「職場に対する不満の理由」に関する12項目について勤務年数との関連を見たものである。

なお、「あてはまる」の回答を「肯定」、「あてはまらない」の回答を「否定」とした。職場に対する不満の理由と勤務年数に関して、5項目に有意な関連が見られた。

「1 仕事自体に生きがいがないから」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、3～7年は「否定」が有意に少なく、「肯定」は有意に多くなっている。勤務年数が15年以上は「否定」が有意に多く、「肯定」は有意に少ない。

「2 収入が少ないから」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、3～7年は、「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少ない。

「5 良い上司に恵まれないから」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～2年は「肯定」が有意に少なく、「否定」は有意に多くなっている。8～14年は「肯定」

表6 職場生活の満足度（女子）

勤務年数	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上	合計	検定結果
満足	5 (5.0)	4 (5.1)	2 (2.1)	6 (7.4)	17 (4.8)	$\chi^2(12)=9.118$
やや満足	14 (14.0)	12 (15.4)	12 (12.8)	17 (21.0)	55 (15.6)	
どちらでもない	37 (37.0)	25 (32.1)	30 (31.9)	25 (30.9)	117 (33.1)	
やや不満	33 (33.0)	26 (33.3)	34 (36.2)	27 (33.3)	120 (34.0)	
不満	11 (11.0)	11 (14.1)	16 (17.0)	6 (7.4)	44 (12.5)	
合計	100 (100.0)	78 (100.0)	94 (100.0)	81 (100.0)	353 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

が有意に多く、「否定」は有意に少ない。 決まってしまうから」について、残差分析を  
「10 昇級や昇進が学歴・研修歴によって 行い、勤務年数に注目すると、15年以上は、

表7 職場に対する不満の理由（男子）

7@	勤務年数	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上	合計	検定結果
1 仕事自体に生きがいがないから	肯定	28 (26.9)	27 (21.8)	27 (22.9)	17 (17.7)	99 (22.4)	$\chi^2(3) = 0.478$
	否定	76 (73.1)	97 (78.2)	91 (77.1)	79 (82.3)	343 (77.6)	
2 収入が少ないから	肯定	37 (35.6)	33 (26.6)	27 (22.9)	21 (21.9)	118 (26.7)	$\chi^2(3) = 0.102$
	否定	67 (64.4)	91 (73.4)	91 (77.1)	75 (78.1)	324 (73.3)	
3 現在の地位や仕事が入らないから	肯定	15 (14.4)	20 (16.1)	17 (14.4)	14 (14.6)	66 (14.9)	$\chi^2(3) = 0.978$
	否定	89 (85.6)	104 (83.9)	101 (85.6)	82 (85.4)	376 (85.1)	
4 職場の安定性がないから	肯定	5 (4.8)	6 (4.8)	4 (3.4)	3 (3.1)	18 (4.1)	$\chi^2(3) = 0.875$
	否定	99 (95.2)	118 (95.2)	114 (96.6)	93 (96.9)	424 (95.9)	
5 よい上司に恵まれないから	肯定	34 (32.7) ▼[-3.0]	55 (44.4) [-0.4]	57 (48.3) [0.7]	56 (58.3) ▲[2.8]	202 (45.7)	$\chi^2(3) = 13.679^{**}$
	否定	70 (67.3) ▲[3.0]	69 (55.6) [0.4]	61 (51.7) [-0.7]	40 (41.7) ▼[-2.8]	240 (54.3)	
6 よい同僚に恵まれないから	肯定	11 (10.6)	13 10.5	16 (13.6)	11 (11.5)	51 (11.5)	$\chi^2(3) = 0.873$
	否定	93 (89.4)	111 (89.5)	102 (86.4)	85 (88.5)	391 (88.5)	
7 職場の施設や設備が不十分だから	肯定	35 (33.7)	40 (32.3)	44 (37.3)	28 (29.2)	147 (33.3)	$\chi^2(3) = 1.651$
	否定	69 (66.3)	84 (67.7)	74 (62.7)	68 (70.8)	295 (66.7)	
8 自分の能力を発揮する場がないから	肯定	20 (19.2)	20 (16.1)	15 (12.7)	13 (13.5)	68 (15.4)	$\chi^2(3) = 2.133$
	否定	84 (80.8)	104 (83.9)	103 (87.3)	83 (86.5)	374 (84.6)	
9 労働時間や休暇に不満があるから	肯定	53 (51.0)	76 (61.3)	57 (48.3)	48 (50.0)	234 (52.9)	$\chi^2(3) = 4.984$
	否定	51 (49.0)	48 (38.7)	61 (51.7)	48 (50.0)	208 (47.1)	
10 昇級や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから	肯定	18 (17.3)	28 (22.6)	27 (22.9)	27 (28.1)	100 (22.6)	$\chi^2(3) = 3.343$
	否定	86 (82.7)	96 (77.4)	91 (77.1)	69 (71.9)	342 (77.4)	
11 被收容者に問題が多いから	肯定	31 (29.8) [0.4]	45 (36.3) ▲[2.3]	31 (26.3) [-0.6]	18 (18.8) ▼[-2.3]	125 (28.3)	$\chi^2(3) = 8.576^*$
	否定	73 (70.2) [-0.4]	79 (63.7) ▼[-2.3]	87 (73.7) [0.6]	78 (81.3) ▲[2.3]	317 (71.7)	
12 その他	肯定	14 (13.5)	20 (16.1)	17 (14.4)	9 (9.4)	60 (13.6)	$\chi^2(3) = 2.204$
	否定	90 (86.5)	104 (83.9)	101 (85.6)	87 (90.6)	382 (86.4)	

注1) ( ) 内は構成比を示し, [ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し, 「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) \*は5%, \*\*は1%未満で有意差があることを示す。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

表8 職場に対する不満の理由(女子)

項目	勤務年数	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上	合計	検定結果
1 仕事自体に生きがいがないから	肯定	10 (22.7) [0.0]	15 (40.5) ▲[3.0]	9 (18.0) [-0.9]	3 (9.1) ▼[-2.1]	37 (22.6)	$\chi^2(3) = 10.869^*$
	否定	34 (77.3) [0.0]	22 (59.5) ▼[-3.0]	41 (82.0) [0.9]	30 (90.9) ▲[2.1]	127 (77.4)	
2 収入が少ないから	肯定	4 (9.1) [-0.9]	10 (27.0) ▲[2.9]	6 (12.0) [-0.2]	1 (3.0) [-1.9]	21 (12.8)	$\chi^2(3) = 10.099^*$
	否定	40 (90.9) [0.9]	27 (73.0) ▼[-2.9]	44 (88.0) [0.2]	32 (97.0) [1.9]	143 (87.2)	
3 現在の地位や仕事が入らないから	肯定	3 (6.8)	3 (8.1)	5 (10.0)	2 (6.1)	13 (7.9)	$\chi^2(3) = 0.528$
	否定	41 (93.2)	34 (91.9)	45 (90.0)	31 (93.9)	151 (92.1)	
4 職場の安定性がないから	肯定	1 (2.3)	4 (10.8)	2 (4.0)	1 (3.0)	8 (4.9)	$\chi^2(3) = 3.776$
	否定	43 (97.7)	33 (89.2)	48 (96.0)	32 (97.0)	156 (95.1)	
5 よい上司に恵まれないから	肯定	11 (25.0) ▼[-4.7]	19 (51.4) [-0.5]	38 (76.0) ▲[3.6]	22 (66.7) [1.5]	90 (54.9)	$\chi^2(3) = 26.909^{***}$
	否定	33 (75.0) ▲[4.7]	18 (48.6) [0.5]	12 (24.0) ▼[-3.6]	11 (33.3) [-1.5]	74 (45.1)	
6 よい同僚に恵まれないから	肯定	4 (9.1)	3 (8.1)	4 (8.0)	5 (15.2)	16 (9.8)	$\chi^2(3) = 1.402$
	否定	40 (90.9)	34 (91.9)	46 (92.0)	28 (84.8)	148 (90.2)	
7 職場の施設や設備が不十分だから	肯定	14 (31.8)	13 (35.1)	14 (28.0)	13 (39.4)	54 (32.9)	$\chi^2(3) = 1.281$
	否定	30 (68.2)	24 (64.9)	36 (72.0)	20 (60.6)	110 (67.1)	
8 自分の能力を発揮する場がないから	肯定	8 (18.2)	4 (10.8)	3 (6.0)	5 (15.2)	20 (12.2)	$\chi^2(3) = 3.600$
	否定	36 (81.8)	33 (89.2)	47 (94.0)	28 (84.8)	144 (87.8)	
9 労働時間や休暇に不満があるから	肯定	31 (70.5)	26 (70.3)	32 (64.0)	22 (66.7)	111 (67.7)	$\chi^2(3) = 0.593$
	否定	13 (29.5)	11 (29.7)	18 (36.0)	11 (33.3)	53 (32.3)	
10 昇級や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから	肯定	5 (11.4) [-1.7]	4 (10.8) [-1.6]	13 (26.0) [1.2]	11 (33.3) ▲[2.1]	33 (20.1)	$\chi^2(3) = 8.754^*$
	否定	39 (88.6) [1.7]	33 (89.2) [1.6]	37 (74.0) [-1.2]	22 (66.7) ▼[-2.1]	131 (79.9)	
11 被収容者に問題が多いから	肯定	17 (38.6)	20 (54.1)	24 (48.0)	13 (39.4)	74 (45.1)	$\chi^2(3) = 2.544$
	否定	27 (61.4)	17 (45.9)	26 (52.0)	20 (60.6)	90 (54.9)	
12 その他	肯定	2 (4.5) [-1.6]	1 (2.7) [-1.8]	8 (16.0) [1.4]	7 (21.2) ▲[2.1]	18 (11.0)	$\chi^2(3) = 9.284^*$
	否定	42 (95.5) [1.6]	36 (97.3) [1.8]	42 (84.0) [-1.4]	26 (78.8) ▼[-2.1]	146 (89.0)	

注1) ( ) 内は構成比を示し, [ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し, 「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) \*は5%, \*\*は1%, \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少ない。

(2) 余暇に関する意識

ア 余暇の満足度

表9は、男子の「余暇の満足度」について、勤務年数ごとに見たものである。余暇の満足度と勤務年数の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は「やや満足」が有意に少な

く、18～24年は「やや不満」が有意に多い。また、25年以上では、「やや満足」が有意に多く、「やや不満」「不満」は有意に少なかった。

表10は、女子の「余暇の満足度」について、勤務年数ごとに見たものである。余暇の満足度と勤務年数の間について、有意な関連は見られなかった。

イ 余暇に対する不満の理由

表11は、男子において余暇の満足度に「不満」「やや不満」と回答した者（調査対象者で

表9 余暇の満足度（男子）

勤務年数	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上	合計	検定結果
満足	46 (16.3) [1.2]	37 (11.9) [-1.3]	37 (12.7) [-0.7]	46 (15.4) [0.8]	166 (14.0)	$\chi^2(12) = 30.483^{**}$
やや満足	66 (23.3) ▼[-2.4]	95 (30.4) [0.7]	79 (27.1) [-0.8]	103 (34.4) ▲[2.4]	343 (28.9)	
どちらでもない	87 (30.7) [0.7]	84 (26.9) [-1.0]	78 (26.8) [-1.0]	95 (31.8) [1.2]	344 (29.0)	
やや不満	60 (21.2) [0.0]	68 (21.8) [0.3]	78 (26.8) ▲[2.7]	46 (15.4) ▼[-2.9]	252 (21.3)	
不満	24 (8.5) [1.3]	28 (9.0) [1.8]	19 (6.5) [-0.2]	9 (3.0) ▼[-3.0]	80 (6.8)	
合計	283 (100.0)	312 (100.0)	291 (100.0)	299 (100.0)	1185 (100.0)	

注1) ( ) 内は構成比を示し，[ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*は1%未満で有意であることを示す。

注3) 残差分析の結果，▲は期待値より有意に多く，▼は期待値より有意に少ないことを示す。（5%未満）

注4) 無回答は除く。

表10 余暇の満足度（女子）

勤務年数	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上	合計	検定結果
満足	11 (11.0)	14 (18.2)	7 (7.4)	8 (9.6)	40 (11.3)	$\chi^2(12) = 13.525$
やや満足	29 (29.0)	16 (20.8)	21 (22.3)	13 (15.7)	79 (22.3)	
どちらでもない	22 (22.0)	9 (24.7)	20 (21.3)	22 (26.5)	83 (23.4)	
やや不満	33 (33.0)	21 (27.3)	35 (37.2)	32 (38.6)	121 (34.2)	
不満	5 (5.0)	7 (9.1)	11 (11.7)	8 (9.6)	31 (8.8)	
合計	100 (100.0)	77 (100.0)	94 (100.0)	83 (100.0)	354 (100.0)	

注1) ( ) 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

ある男子全体の28.2%)のうち、「余暇に対する不満の理由」に関する10項目について勤務年数との関連を見たものである。

なお、「あてはまる」の回答を「肯定」、「あてはまらない」の回答を「否定」とした。余暇に対する不満の理由と勤務年数に関して、

3項目に有意な関連が見られた。

「1 平日の自由時間が少ない」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は「肯定」が有意に少なく、「否定」は有意に多くなっている。10～17年は「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少なくなっ

表11 余暇に対する不満の理由 (男子)

項目	勤務年数	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上	合計	検定結果
1 平日の自由時間が少ない	肯定	26 (31.0) ▼[2.6]	53 (55.8) ▲[2.9]	42 (43.3) [0.0]	22 (40.0) [-0.5]	143 (43.2)	$\chi^2(3)=11.501^{**}$
	否定	58 (69.0) ▲[2.6]	42 (44.2) ▼[-2.9]	55 (56.7) [0.0]	33 (60.0) [0.5]	188 (56.8)	
2 休日が少ない	肯定	35 (41.7)	46 (48.4)	37 (38.1)	16 (29.1)	134 (40.5)	$\chi^2(3)=5.716$
	否定	49 (58.3)	49 (51.6)	60 (61.9)	39 (70.9)	197 (59.5)	
3 長期休暇が少ない	肯定	66 (78.6)	64 (67.4)	63 (64.9)	33 (60.0)	226 (68.3)	$\chi^2(3)=6.382$
	否定	18 (21.4)	31 (32.6)	34 (35.1)	22 (40.0)	105 (31.7)	
4 休暇・休日の予定が立てにくい	肯定	44 (52.4)	57 (60.0)	60 (61.9)	29 (52.7)	190 (57.4)	$\chi^2(3)=2.407$
	否定	40 (47.6)	38 (40.0)	37 (38.1)	26 (47.3)	141 (42.6)	
5 家事・育児に時間がかかる	肯定	6 (7.1) [-1.1]	17 (17.9) ▲[2.9]	10 (10.3) [0.0]	1 (1.8) ▼[-2.3]	34 (10.3)	$\chi^2(3)=11.146^*$
	否定	78 (92.9) [-1.1]	78 (82.1) ▼[-2.9]	87 (89.7) [0.0]	54 (98.2) ▲[2.3]	297 (89.7)	
6 介護に時間がかかりすぎる	肯定	1 (1.2)	3 (3.2)	4 (4.1)	3 (5.5)	11 (3.3)	$\chi^2(3)=2.168$
	否定	83 (98.8)	92 (96.8)	93 (95.9)	52 (94.5)	320 (96.7)	
7 お金がかかりすぎる	肯定	9 (10.7)	18 (18.9)	22 (22.7)	14 (25.5)	63 (19.0)	$\chi^2(3)=6.082$
	否定	75 (89.3)	77 (81.1)	75 (77.3)	41 (74.5)	268 (81.0)	
8 近くに適当な施設がない	肯定	12 (14.3)	17 (17.9)	13 (13.4)	9 (16.4)	51 (15.4)	$\chi^2(3)=0.87$
	否定	72 (85.7)	78 (82.1)	84 (86.6)	46 (83.6)	280 (84.6)	
9 利用したい時間に施設が空いていない	肯定	4 (4.8)	8 (8.4)	7 (7.2)	3 (5.5)	22 (6.6)	$\chi^2(3)=1.14$
	否定	80 (95.2)	87 (91.6)	90 (92.8)	52 (94.5)	309 (93.4)	
10 家族などとの時間があわない	肯定	20 (23.8) [-1.6]	22 (23.2) [-1.9]	40 (41.2) ▲[2.6]	20 (36.4) [1.0]	102 (30.8)	$\chi^2(3)=10.282^*$
	否定	64 (76.2) [1.6]	73 (76.8) [1.9]	57 (58.8) ▼[-2.6]	35 (63.6) [-1.0]	229 (69.2)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し, 「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) \*は5%, \*\*は1%未満で有意差があることを示す。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

いる。

「5 家事・育児に時間がかかる」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、10～17年は「否定」が有意に少なく、「肯定」は有意に多くなっている。25年以上は「否定」が有意に多く、「肯定」は有意に少なくなっている。

「10 家族などとの時間が合わない」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、18～24年は「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少なくなっている。

表12は、女子において余暇の満足度に「不満」「やや不満」と回答した者（調査対象者である女子全体の43.1%）のうち、「余暇に対す

表12 余暇に対する不満の理由（女子）

項目	勤務年数	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上	合計	検定結果
1 平日の自由時間が少ない	肯定	4 (10.5) ▼[-4.8]	10 (35.7) [-1.0]	28 (60.9) ▲[2.8]	25 (61.0) ▲[2.6]	67 (43.8)	$\chi^2(3) = 28.195^{***}$
	否定	34 (89.5) ▲[4.8]	18 (64.3) [1.0]	18 (39.1) ▼[-2.8]	16 (39.0) ▼[-2.6]	86 (56.2)	
2 休日が少ない	肯定	7 (18.4)	6 (21.4)	11 (23.9)	9 (22.0)	33 (21.6)	$\chi^2(3) = 0.376$
	否定	31 (81.6)	22 (78.6)	35 (76.1)	32 (78.0)	120 (78.4)	
3 長期休暇が少ない	肯定	19 (50.0)	15 (53.6)	23 (50.0)	24 (58.5)	81 (52.9)	$\chi^2(3) = 0.811$
	否定	19 (50.0)	13 (46.4)	23 (50.0)	17 (41.5)	72 (47.1)	
4 休暇・休日の予定が立てにくい	肯定	30 (78.9)	20 (71.4)	36 (78.3)	33 (80.5)	119 (77.8)	$\chi^2(3) = 0.864$
	否定	8 (21.1)	8 (28.6)	10 (21.7)	8 (19.5)	34 (22.2)	
5 家事・育児に時間がかかる	肯定	0 (0.0) ▼[-3.7]	4 (14.3) [-1.0]	10 (21.7) [0.0]	19 (46.3) ▲[4.5]	33 (21.6)	$\chi^2(3) = 26.203^{***}$
	否定	38 (100.0) ▲[3.7]	24 (85.7) [1.0]	36 (78.3) [0.0]	22 (53.7) ▼[-4.5]	120 (78.4)	
6 介護に時間がかかりすぎる	肯定	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.9)	2 (1.3)	P=0.163m
	否定	38 (100.0)	28 (100.0)	46 (100.0)	39 (95.1)	151 (98.7)	
7 お金がかかりすぎる	肯定	2 (5.3)	3 (10.7)	1 (2.2)	3 (7.3)	9 (5.9)	$\chi^2(3) = 2.502$
	否定	36 (94.7)	25 (89.3)	45 (97.8)	38 (92.7)	144 (94.1)	
8 近くに適当な施設がない	肯定	11 (28.9)	5 (17.9)	5 (10.9)	5 (12.2)	26 (17.0)	$\chi^2(3) = 5.757$
	否定	27 (71.1)	23 (82.1)	41 (89.1)	36 (87.8)	127 (83.0)	
9 利用したい時間に施設が空いていない	肯定	4 (10.5)	2 (7.1)	2 (4.3)	4 (9.8)	12 (7.8)	$\chi^2(3) = 1.383$
	否定	34 (89.5)	26 (92.9)	44 (95.7)	37 (90.2)	141 (92.2)	
10 家族などとの時間が合わない	肯定	15 (39.5)	11 (39.3)	17 (37.0)	19 (46.3)	62 (40.5)	$\chi^2(3) = 0.854$
	否定	23 (60.5)	17 (60.7)	29 (63.0)	22 (53.7)	91 (59.5)	

注1) ( ) 内は構成比を示し, [ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し, 「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため, モンテカルロ法によることを示す。

注6) 無回答は除く。

表13 余暇の目的 (男子)

	勤務年数				合計	
	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上		
のんびり休養して鋭気を養う	55 (19.6) [0.0]	45 (14.4) ▼[-2.7]	60 (20.7) [0.5]	71 (24.2) ▲[2.3]	231 (19.6)	P=0.000m***
家族、友人、知人との交流を楽しむ	94 (33.5) [0.6]	148 (47.4) ▲[6.9]	80 (27.6) [-1.8]	53 (18.1) ▼[-5.8]	375 (31.9)	
自然に親しむ	8 (2.8) ▼[-2.4]	12 (3.8) [-1.7]	15 (5.2) [-0.5]	33 (11.3) ▲[4.6]	68 (5.8)	
知識や教養を高める	9 (3.2) ▲[2.4]	4 (1.3) [-0.5]	4 (1.4) [-0.4]	2 (0.7) [-1.5]	19 (1.6)	
スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ	110 (39.1) [1.0]	92 (29.5) ▼[-3.0]	111 (38.3) [0.7]	117 (39.9) [1.4]	430 (36.6)	
仕事に役立つ能力開発のための学習を行う	2 (0.7) [-0.4]	5 (1.6) [1.4]	3 (1.0) [0.2]	1 (0.3) [-1.2]	11 (0.9)	
地域・社会的活動やボランティア活動を行う	3 (1.1) ▼[-2.6]	6 (1.9) [-1.8]	17 (5.9) ▲[2.4]	16 (5.5) ▲[2.0]	42 (3.6)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

表14 余暇の目的 (女子)

	勤務年数				合計	
	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上		
のんびり休養して鋭気を養う	25 (25.0) ▼[-2.0]	20 (26.0) [-1.5]	33 (36.3) [0.8]	38 (45.8) ▲[2.8]	116 (33.0)	P=0.015m*
家族、友人、知人との交流を楽しむ	48 (48.0) [1.5]	40 (51.9) ▲[2.0]	32 (35.2) [-1.5]	27 (32.5) ▼[-2.0]	147 (41.9)	
自然に親しむ	5 (5.0) [1.0]	1 (1.3) [-1.2]	1 (1.1) [-1.4]	5 (6.0) [1.5]	12 (3.4)	
知識や教養を高める	2 (2.0) [1.0]	1 (1.3) [0.1]	0 - [-1.2]	1 (1.2) [0.1]	4 (1.1)	
スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ	20 (20.0) [-0.1]	15 (19.5) [-0.2]	25 (27.5) ▲[2.0]	11 (13.3) [-1.8]	71 (20.2)	
地域・社会的活動やボランティア活動を行う	0 - [-0.6]	0 - [-0.5]	0 - [-0.6]	1 (1.2) [1.8]	1 (0.3)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*は5%未満で有意差があることを示す。

注3) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

る不満の理由」に関する10項目について勤務年数との関連を見たものである。

なお、「あてはまる」の回答を「肯定」, 「あてはまらない」の回答を「否定」とした。余暇に対する不満の理由と勤務年数に関して、2項目に有意な関連が見られた。

「1 平日の自由時間が少ない」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～2年は「肯定」が有意に少なく、「否定」が有意に多い。また、8年以上は、「肯定」が有意に多く、「否定」が有意に少なかった。

「5 家事・育児に時間がかかる」について、残差分析を行い、勤務年数に注目すると、

0～2年は「肯定」が有意に少なく、「否定」は有意に多くなっている。15年以上は「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少なくなっている。

ウ 余暇の目的

表13は、男子の「余暇の目的」について、勤務年数との関連を見たものである。余暇の目的と勤務年数の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は「知識や教養を高める」が有意に多く、「自然に親しむ」「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有意に少なかった。10年～17年は「家族、友人、知

表15 休日の日数に対する意識（男子）

	勤務年数				合計	
	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上		
少ない	79 (27.8) [1.0]	85 (27.4) [0.9]	78 (26.9) [0.6]	59 (20.1) ▼[-2.5]	301 (25.6)	P=0.000m***
やや少ない	111 (39.1) ▲[2.2]	112 (36.1) [1.1]	93 (32.1) [-0.6]	80 (27.2) ▼[-2.7]	396 (33.6)	
現在の程度でよい	88 (31.0) ▼[-3.4]	113 (36.5) [-1.3]	117 (40.3) [0.3]	149 (50.7) ▲[4.5]	467 (39.6)	
やや多い	5 (1.8) [1.4]	0 - ▼[-2.1]	2 (0.7) [-0.6]	5 (1.7) [1.3]	12 (1.0)	
多い	1 (0.4) [0.9]	0 - [-0.8]	0 - [-0.8]	1 (0.3) [0.8]	2 (0.2)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

表16 休日の日数に対する意識（女子）

	勤務年数				合計	
	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上		
少ない	21 (21.2)	22 (28.6)	22 (23.7)	15 (18.3)	80 (22.8)	P=0.215m
やや少ない	40 (40.4)	26 (33.8)	40 (43.0)	25 (30.5)	131 (37.3)	
現在の程度でよい	38 (38.4)	29 (37.7)	30 (32.3)	42 (51.2)	139 (39.6)	
やや多い	0 -	0 -	1 (1.1)	0 -	1 (0.3)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注3) 無回答は除く。

人との交流を楽しむ」が有意に多く、「のんびり休養して鋭気を養う」「スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ」は有意に少なかった。18～24年は「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有意に多かった。25年以上は「のんびり休養して鋭気を養う」「自然に親しむ」「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有意に多く、「家族、友人、知人との交流を楽しむ」は有意に少なかった。

表14は、女子の「余暇の目的」について、

勤務年数との関連を見たものである。余暇の目的と勤務年数の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～2年は「のんびり休養して鋭気を養う」が有意に少なく、3～7年は「家族、友人、知人との交流を楽しむ」が有意に多かった。勤務年数が8年～14年は「スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ」が有意に多く、15年以上は「のんびり休養して鋭気を養う」が有意に多く、「家族、友人、知人との交流を楽しむ」は有意に少なかった。

表17 連続休暇の希望日数 (男子)

	勤務年数				合計	検定結果
	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上		
3日	20 (7.0) [-1.8]	29 (9.3) [-0.3]	27 (9.3) [-0.3]	40 (13.4) [2.4]	116 (9.8)	$\chi^2(12) = 37.023^{***}$
5日	42 (14.8) [-1.4]	40 (12.8) ▼[-2.5]	52 (17.9) [0.2]	73 (24.4) ▲[3.7]	207 (17.5)	
7日	97 (34.2) [-0.4]	111 (35.6) [0.2]	100 (34.5) [-0.3]	108 (36.1) [0.4]	416 (35.1)	
10日	94 (33.1) [1.4]	106 (34.0) [1.9]	88 (30.3) [0.3]	64 (21.4) ▼[-3.6]	352 (29.7)	
20日以上	31 (10.9) ▲[2.1]	26 (8.3) [0.3]	23 (7.9) [0.0]	14 (4.7) ▼[-2.4]	94 (7.9)	

注1) ( ) 内は構成比を示し, [ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

表18 連続休暇の希望日数 (女子)

	勤務年数				合計	検定結果
	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上		
3日	22 (22.0)	11 (14.1)	13 (13.8)	15 (18.1)	61 (17.2)	$\chi^2(12) = 15.709$
5日	22 (22.0)	11 (14.1)	10 (10.6)	15 (18.1)	58 (16.3)	
7日	20 (20.0)	18 (23.1)	28 (29.8)	26 (31.3)	92 (25.9)	
10日	26 (26.0)	26 (33.3)	32 (34.0)	23 (27.7)	107 (30.1)	
20日以上	10 (10.0)	12 (15.4)	11 (11.7)	4 (4.8)	37 (10.4)	

注1) ( ) 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

エ 休日の日数に対する意識

表15は、男子の「休日の日数に対する意識」について、勤務年数との関連を見たものである。休日の日数に対する意識と勤務年数の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は、「やや少ない」が有意に多く、「現在の程度でよい」は有意に少なかった。10年～17年は「やや多い」が有意に少なかった。25年以上では、「現在の程度でよい」が有意に多く、「少ない」「やや少ない」はそれぞれ有意に少なかった。

表16は、女子の「休日の日数に対する意識」

について、勤務年数との関連を見たものである。休日の日数に対する意識と勤務年数の間について、有意な関連は見られなかった。勤務年数ごとに見ると、15年以上の者は、約半数が「現在の程度でよい」と回答している。

オ 連続休暇の希望日数

表17は、男子の「連続休暇の希望日数」について、勤務年数との関連を見たものである。希望日数と勤務年数の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～9年は「20日以上」が有意に多く、10年～17年は「5日」が有意に少な

表19 仕事と余暇の関係（男子）

勤務年数	0～9年	10～17年	18～24年	25年以上	合計	検定結果
余暇を楽しむことが最も大切である	37 (13.1)	27 (8.7)	20 (6.8)	18 (6.0)	102 (8.6)	$\chi^2(12) = 17.719$
できるだけ余暇を楽しむ	42 (14.8)	45 (14.4)	39 (13.3)	39 (13.0)	165 (13.9)	
仕事も余暇も両方大切である	196 (69.3)	228 (73.1)	220 (75.1)	222 (74.2)	866 (73.0)	
できる限り仕事の方に力を注ぐ	4 (1.4)	9 (2.9)	8 (2.7)	13 (4.3)	34 (2.9)	
仕事が最も大切である	4 (1.4)	3 (1.0)	6 (2.0)	7 (2.3)	20 (1.7)	
合計	283 (100.0)	312 (100.0)	293 (100.0)	299 (100.0)	1187 (100.0)	

注1) ( ) 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表20 仕事と余暇の関係（女子）

勤務年数	0～2年	3～7年	8～14年	15年以上	合計	検定結果
余暇を楽しむことが最も大切である	16 (16.0) [-0.1]	16 (20.8) [1.2]	18 (19.1) [0.8]	8 (9.6) [-1.9]	58 (16.4)	P=25.764m**
できるだけ余暇を楽しむ	30 (30.0) ▲[2.0]	20 (26.0) [0.7]	20 (21.3) [-0.4]	11 (13.3) ▼[-2.4]	81 (22.9)	
仕事も余暇も両方大切である	53 (53.0) [-0.9]	40 (51.9) [-1.0]	53 (56.4) [-0.1]	55 (66.3) ▲[2.0]	201 (56.8)	
できる限り仕事の方に力を注ぐ	1 (1.0) [-1.3]	1 (1.3) [-0.9]	2 (2.1) [-0.5]	6 (7.2) ▲[2.8]	10 (2.8)	
仕事が最も大切である	0 (0.0) [-1.3]	0 (0.0) [-1.1]	1 (1.1) [-0.1]	3 (3.6) ▲[2.4]	4 (1.1)	
合計	100 (100.0)	77 (100.0)	94 (100.0)	83 (100.0)	354 (100.0)	

注1) ( ) 内は構成比を示し、[ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*は1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注5) 無回答は除く。

かった。25年以上は、「5日」が有意に多く、「10日」「20日以上」は有意に少なくなっている。

表18は、女子の「連続休暇の希望日数」について、勤務年数との関連を見たものである。連続休暇の希望日数と勤務年数の間について、有意な関連は見られなかった。回答が、「7日」及び「10日」は2～3割強を占めている。

### (3) 職業と余暇に関する意識

#### ア 仕事と余暇の関係

表19は、男子の「仕事と余暇の関係」について、勤務年数との関連を見たものである。仕事と余暇の関係と勤務年数の間について有意な関連は見られなかった。すべての勤務年数カテゴリーにおいて「仕事も余暇も両方大事である」を約7割が占めていた。

表20は、女子の「仕事と余暇の関係」について、勤務年数との関連を見たものである。仕事と余暇の関係と勤務年数の間について有

表21 職場と余暇の満足度（男子0-9年）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	58 (52.3) ▲[5.5]	24 (27.9) [-1.3]	11 (13.3) ▼[-4.6]	93 (33.2)	$\chi^2(4) = 45.139^{***}$
	どちらでもない	23 (20.7) ▼[-2.7]	37 (43.0) ▲[3.2]	24 (28.9) [-0.3]	84 (30.0)	
	不満	30 (27.0) ▼[-2.7]	25 (29.1) [-1.8]	48 (57.8) ▲[4.7]	103 (36.8)	
合計		111 (100.0)	86 (100.0)	83 (100.0)	280 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し、[ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

表22 職場と余暇の満足度（男子10-17年）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	59 (45.4) ▲[4.9]	19 (22.6) [-1.8]	16 (16.7) ▼[-3.5]	94 (30.3)	$\chi^2(4) = 46.703^{***}$
	どちらでもない	34 (26.2) [-1.1]	38 (45.2) ▲[3.7]	19 (19.8) ▼[-2.5]	91 (29.4)	
	不満	37 (28.5) ▼[-3.6]	27 (32.1) [-1.8]	61 (63.5) ▲[5.6]	125 (40.3)	
合計		130 (100.0)	84 (100.0)	96 (100.0)	310 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し、[ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

意な関連が見られた。残差分析を行い、勤務年数に注目すると、0～2年は、「できるだけ余暇を楽しむ」が、15年以上では「仕事も余暇も大事である」「できる限り仕事の方に力を注ぐ」「仕事がかつても大切である」が有意にそれぞれ多かった。また、15年以上において「できるだけ余暇を楽しむ」は有意に少なかった。

イ 職場と余暇の満足度の関係

表21から表24は男子について、表25から表

28は女子について、それぞれ勤務年数の区分ごとに「職場と余暇の満足度」について、満足度別に関連を見たものである。

表21は、勤務年数0～9年の場合である。「職場と余暇の満足度」に有意な関連が見られたため、残差分析を行った。その結果、余暇の満足度が「満足」であるものは、職場の満足度も「満足」が有意に高く、「どちらでもない」「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「どちらでもない」は、職場の満足度

表23 職場と余暇の満足度（男子18～24年）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	60 (52.6) ▲[4.6]	23 (29.5) [-1.5]	22 (22.7) ▼[-3.4]	105 (36.3)	$\chi^2(4) = 49.868^{***}$
	どちらでもない	23 (20.2) [-1.1]	32 (41.0) ▲[4.3]	13 (13.4) ▼[-2.9]	68 (23.5)	
	不満	31 (27.2) ▼[-3.6]	23 (29.5) ▼[-2.2]	62 (63.9) ▲[5.9]	116 (40.1)	
	合計	114 (100.0)	78 (100.0)	97 (100.0)	289 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し、[ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

表24 職場と余暇の満足度（男子25年以上）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	79 (53.4) ▲[4.1]	34 (35.8) [-1.4]	10 (18.9) ▼[-3.7]	123 (41.6)	$\chi^2(4) = 39.394^{***}$
	どちらでもない	27 (18.2) ▼[-2.7]	37 (38.9) ▲[3.8]	10 (18.9) [-1.1]	74 (25.0)	
	不満	42 (28.4) [-1.8]	24 (25.3) ▼[-2.1]	33 (62.3) ▲[4.9]	99 (33.4)	
	合計	148 (100.0)	95 (100.0)	53 (100.0)	296 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し、[ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*\*は0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

も「どちらでもない」が有意に高かった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場でも「不満」が有意に多く、「満足」は有意に少なかった。

表22は、勤務年数10～17年における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、満足度に注目すると、余暇の満足度が「満足」であるものは、職場の満足度も「満足」が有意に高く、「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「どちらでもない」は、職場の満足度も「どちらでもない」が有意に高かった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場

でも「不満」が有意に多く、「満足」「どちらでもない」は有意に少なかった。

表23は、勤務年数18～24年における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、満足度に注目すると、余暇の満足度が「満足」であるものは、職場の満足度も「満足」が有意に高く、「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「どちらでもない」は、職場の満足度も「どちらでもない」が有意に高く、「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場でも「不満」が有意に多く、「満足」「どちらでもない」は有意に少な

表25 職場と余暇の満足度 (女子0-2年)

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	12 (30.0)	3 (13.6)	4 (10.5)	19 (19.0)	$\chi^2(4) = 6.744$
	どちらでもない	14 (35.0)	10 (45.5)	13 (34.2)	37 (37.0)	
	不満	14 (35.0)	9 (40.9)	21 (55.3)	44 (44.0)	
合計	40 (100.0)	22 (100.0)	38 (100.0)	100 (100.0)		

注1) ( ) 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表26 職場と余暇の満足度 (女子3-7年)

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	10 (33.3) ▲[2.2]	3 (15.8) [-0.6]	3 (10.7) [-1.6]	16 (20.8)	$\chi^2(4) = 13.833^{**}$
	どちらでもない	10 (33.3) [0.1]	10 (52.6) ▲[2.2]	5 (17.9) ▼[-2.1]	25 (32.5)	
	不満	10 (33.3) [-1.9]	6 (31.6) [-1.5]	20 (71.4) ▲[3.3]	36 (46.8)	
合計	30 (100.0)	19 (100.0)	28 (100.0)	77 (100.0)		

注1) ( ) 内は構成比を示し, [ ] 内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*は1%未満で有意差があることを示す。

注3) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注4) 無回答は除く。

かった。

表24は、勤務年数25年以上における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、満足度に注目すると、余暇の満足度が「満足」であるものは、職場の満足度も「満足」が有意に高く、「どちらでもない」は有意に少なかった。余暇の満足度が「どちらでもない」は、職場の満足度も「どちらでもない」が有意に高く、「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場でも「不満」が有意に多く、「満足」は有意に少なかった。

た。

表25は、女子の勤務年数0～2年における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連は見られなかった。

表26は、勤務年数3～7年における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、満足度に注目すると、余暇の満足度が「満足」「どちらでもない」であるものは、それぞれ職場の満足度も「満足」「どちらでもない」が有意に高かった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場でも「不満」が有意に多く、「ど

表27 職場と余暇の満足度（女子8～14年）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	8 (28.6) ▲[2.4]	3 (15.0) [0.0]	3 (6.5) ▼[-2.2]	14 (14.9)	P=0.003m**
	どちらでもない	10 (35.7) [0.5]	10 (50.0) ▲[2.0]	10 (21.7) ▼[-2.1]	30 (31.9)	
	不満	10 (35.7) ▼[-2.2]	7 (35.0) [-1.8]	33 (71.7) ▲[3.5]	50 (53.2)	
	合計	28 (100.0)	20 (100.0)	46 (100.0)	94 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示し, [ ]内は調整済み残差を示す。

注2) \*\*は1%未満で有意差があることを示す。

注3) mは期待度数が5未満であるセルが20%を超えたため、モンテカルロ法によることを示す。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%未満)

注5) 無回答は除く。

表28 職場と余暇の満足度（女子15年以上）

		余暇の満足度			合計	検定結果
		満足	どちらでもない	不満		
職場の満足度	満足	7 (35.0)	6 (27.3)	10 (25.6)	23 (28.4)	$\chi^2(4) = 2.691$
	どちらでもない	6 (30.0)	9 (40.9)	10 (25.6)	25 (30.9)	
	不満	7 (35.0)	7 (31.8)	19 (48.7)	33 (40.7)	
	合計	20 (100.0)	22 (100.0)	39 (100.0)	81 (100.0)	

注1) ( )内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

ちらでもない」は有意に少なかった。

表27は、勤務年数8年～14年における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られた。残差分析を行い、満足度に注目すると、余暇の満足度が「満足」であるものは、職場の満足度も「満足」が有意に高く、「不満」は有意に少なかった。余暇の満足度が「どちらでもない」は、職場の満足度も「どちらでもない」が有意に高かった。余暇の満足度が「不満」であるものは、職場でも「不満」が有意に多く、「満足」「どちらでもない」は有意に少なかった。

表28は、勤務年数15年以上における場合である。職場と余暇の満足度の間について、有意な関連が見られなかった。

## 5 考察

### (1) 職業に関する意識

職場の満足度について、男子では、勤務年数が10～17年の職員に不満が高まっていることが分かる。このことは、勤務年数が10～17年の職員は企業帰属意識尺度得点(表3)が低い結果からも想像できる。つまり、他の勤務年数群よりも、組織の目標、価値観を受け入れ、所属する組織のために働きたいという意欲はやや弱いと言えよう。一方、職業志向尺度(表1)では、勤務年数が10～17年の職員は、他の勤務年数群よりも得点が高いことから刑務官の仕事自体に対する思い入れは大きいと考えられよう。また、職場の満足度について「不満」「やや不満」と回答した職員の中で、その不満の理由として、男子の勤務年数が10～17年の職員は「被收容者に問題が多いから」が有意に多く選択しており、困難な職務における現場第一線の勤務者が多いことを反映していることがうかがわれる。男子の勤務年数が0～9年の職員で職場の満足度について「不満」「やや不満」と回答したもののうち、その不満の理由として「よい上司に恵

まれないから」に対して「肯定」が有意に少なく反応しているが、この意味するところは、勤務年数の少ない職員に対しては、職場での細かいフォローがなされているためであろう。そうすると、それだけチームワークが取れている職場環境であることの反映だと考えられる。男子で勤務年数が10～17年の職員は、処遇現場にて勤務年数の少ない職員に対してフォローする側になりつつあると捉えることができ、それだけ職務の負担となっていることが予想できよう。

職場の満足度に関して、女子では勤務年数ごとに差が見られなかったものの、勤務年数0～2年の職員は、職業志向尺度得点が、15年以上の職員とともに高く、また、職場の満足度について「不満」「やや不満」と回答した職員の中で、職場に対する不満の理由としては「よい上司に恵まれないから」が有意に少ないことから、勤務年数ごとに差が見られている。このことは、勤務年数0～2年の女子職員にとって、刑務官の仕事自体に対する思い入れは大きく、男子同様、チームワークのバランスがとれている職場であると捉えることができる。勤務年数15年以上の女子職員は、職業志向尺度得点と企業帰属意識尺度得点とともに高く、理想的な状態にあるとはいえ、職場の満足度について不満、やや不満を感じている職員の中には、その不満の理由として「昇級や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから」「その他」が有意に多く、今後検討の余地があると考えられる。

### (2) 余暇に関する意識

男子の余暇の満足度について、勤務年数が18～24年の群では「やや不満」が有意に多くなっている。また、同群では、余暇の満足度について「不満」「やや不満」と回答した男子職員うち、余暇に対する不満の理由として「家族などとの時間があわない」を挙げるものが有意に多く、さらに、余暇の目的では、「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有

意に多く選択されている。一方、勤務年数が0～9年では、「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有意に低いことから、勤務年数が多くなるにつれて、地域に貢献する活動が増えていると考えられる。

「月刊 総務」（2000）では、最近の余暇に対する傾向として、ボランティアや地域の仕事への参加希望が増えてきたことが指摘されている。行刑施設職員も、勤務年数が多くなるにつれて職場だけでなく、社会とのつながりを求めていくのであろうか。廣橋（2001）は、男子行刑施設職員について、39歳以下は官舎に住むことが多く、40歳以上では、官舎以外に住むことが多いことを示しているが、今回の結果とあわせて考えると、必然的に社会とのつながりが増えたことにより、地域での活動等の機会が増えたとも推察される。逆に捉えると、官舎に住んでいる勤務年数の少ない職員は、地域・社会とのつながりが幾分希薄であると言えるであろう。交替制勤務であることや、必ずしも勤務地が地元でない場合もあろうが、クラブ活動及び職員会の活動等を通して、今後一層の近隣地域との交流が望まれる。このことは、矯正の広報に役立つというよりも、まさに個々の職員の余暇を豊かにするはずであるからである。「家族などとの時間があわない」については、家族構成の内訳等さまざまな要因がかかわりあうため、今回の考察は控える。今後は家族形態の詳細を加えた検討が必要である。

一方、男子で勤務年数25年以上の余暇の満足度については、「やや満足」が有意に多く、「やや不満」「不満」は有意に少ない。また、勤務年数が25年以上は休日の日数に対する意識について「現在の程度でよい」が有意に多く、連続休暇の希望日数についても「5日」が有意に多く選択されていることから余暇の現状にそれなりの満足をしていると考えられる。また、勤務年数が25年以上は、余暇の満足度について「不満」「やや不満」と回答した

職員の中で、その理由として「5 家事・育児に時間がかかる」について、否定が有意に多く選択されていた。余暇の目的からは、「のんびり休養して鋭気を養う」「自然に親しむ」「地域・社会的活動やボランティア活動を行う」が有意に多いことから、自分のペースで余暇を過ごしていることがうかがえる。今回のデータからだけでは、詳細な解釈は差し控えるが、勤務年数が25年以上では、余暇の時間に余裕が出てくるのは確かであるようである。

余暇の満足度に関して、女子では勤務年数ごとに差が見られなかった。女子においては、余暇に不満を感じている中では、余暇に対する不満の理由として勤務年数ごとに差が見られており、勤務年数が8年以上の場合「1 平日の自由時間が少ない」に対して肯定が有意に多く選択している。また、勤務年数が15年以上の場合、「5 家事・育児に時間がかかる」も有意に多く、選択されていることから、平日の自由時間については、家事・育児に関することが大きく影響していると考えられる。余暇の目的からは、8～14年は、「スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ」が、15年以上は「のんびり休養して鋭気を養う」がそれぞれ有意に多いが、勤務年数を通して一貫した傾向は見られなかった。

### (3) 職業と余暇に関する意識

男子においては、仕事と余暇の関係について、勤務年数ごとに差は見られなかったが、職場と余暇の満足度に関しては、どの勤務年齢においても有意差が見られた。職業と余暇の満足度については、職場の満足度が「満足」なら余暇の満足度も「満足」のように職場も余暇も同じ評価項目であるという一種の比例関係がすべての勤務年齢に見られた。このことは職場と余暇が密接する関係であることを改めて示していよう。

女子に関しては、仕事と余暇の関係について、勤務年数ごとに差が見られ、勤務年齢0

～2年では「できるだけ余暇を楽しむ」が有意に多く、勤務年数が15年以上の場合は、「仕事も余暇も両方大切である」「できる限り仕事の方に力を注ぐ」「仕事が最も大切である」が有意に多く、勤務年齢の差によって、志向性の違いが明らかになっている。職業と余暇の満足度については、職場の満足度が「満足」なら余暇の満足度も「満足」のように職場も余暇も同じ評価項目であるものは、勤務年数が3～7年と8～14年であった。女子でも部分的ではあるが、男子同様に職場と余暇が1種の比例関係にあることを示している。

## 6 おわりに

今回の調査に関する分析は、職業と余暇の意識に関して、男子職員はもちろんのこと、第一に女子職員の実態を把握したいという視点から取り組まれた。四分位を用いることで男子と女子の勤務年数に差が出るなど取り扱いにくい部分もあるが、女子職員の偏った母集団を扱うため今回の方式を採用した。その結果、職業と余暇に関する意識調査においては、男子、女子とも職業と余暇の満足度は比例関係にあることが示された。また、男子及び女子ともに勤務経験の少ない職員が、職場のチームワークによって円滑に職務を果たしていることも今回の研究で明らかとなった。

現代社会は、あらゆる面で労働が肥大化してしまい、昨今の不況とあいまって、労働時間短縮、派遣社員制度、ワークシェアリング、PFI(注)の導入の是非などさまざまな問題が提起されており、仕事や職業の定義も幅が広がってきているように思われる。

週休2日制が矯正の職場にすでに定着していることに伴い、職業と余暇に関して、今後どのように関係が変わっていくのか、さらなる調査研究が必要とされよう。今回の研究が行刑施設職員の現状を考える上で、ひとつの参考になれば幸いである。

最後に、調査研究の企画、調査及び分析について、多くの矯正関係の協力者があってこそ実施することができたことを付言したい。

今回の調査項目中には、過去の同種の研究では割愛されたものもあったが、それらも含めて調査を行うことができた。その意味において、本研究の実施にあたり調査研究に御協力を賜った法務省矯正局をはじめ矯正施設の各位に対し、改めて心から謝意を表します。

(注) Private Finance Initiative の略称

民間の資金調達、運営等のノウハウを活用し、公的サービスを向上させること。

## 引用文献

- 廣橋秀山 濱井郁子 田島秀紀 松村猛 中勢直之 2000 高齢受刑者に関する研究 (その1) 中央研究所紀要 第10号 11-37
- 月刊総務 2000 こんな時代の余暇事情 20-22関本昌秀 花田光世 1987 企業帰属意識の構造化と、影響要因の研究 産業・組織心理学研究 第1号、9-20
- 総理府内閣総理大臣官房広報室 1992 余暇時間の活用と旅行に関する世論調査 20-23
- 総理府内閣総理大臣官房広報室 1999 余暇時間の活用と旅行に関する世論調査 26-29
- 鈴木和正他 1992 北海道矯正 第29号 38-98
- 内城善雄 1981 職員(特に若手職員)の意識と研修について 矯正教育 第32巻4号、2-28
- 吉村勝正 1993 完全週休二日制 九州矯正 第47巻4号 47-53
- 若林満 後藤宗理 鹿内啓子 1983 職業レディネスと職業選択の構造 名古屋大学教育学部紀要、第30号、63-68